

愛 労 連

愛知県労働組合総連合

名古屋市熱田区沢下町9-7
労働会館東館3F
TEL 052-871-5433
FAX 052-871-5618
URL http://www.airoren.gr.jp
発行人 樽松 佐一
第120号 2003年7月10日

原水爆禁止世界大会愛知のつどい

とき 7月27日(日) 13:00から
ところ 名古屋市教育館

国際交流愛知女性のつどい

とき 8月10日(日) 13:30から
ところ 名古屋市男女平等参画推進センター
旧ワービアつるまい

イラク特措法

自衛隊派兵は占領軍への参加



18才の息子を米軍兵士に射殺され、墓の前で泣き崩れてしまった父。「息子は何かしたわけでも、武器を持っていたわけでもないのに」(写真：久保田弘信さん)

米英のイラク軍事占領を支援するために、自衛隊を派兵するイラク特措法案は4日の衆院本会議で与党三党によって強行。たたかひの舞台は参院に移っていますが、イラクの現状とイラク国民が求める支援について、戦前から取材を続けているフォトジャーナリストの久保田弘信さんに北医療生協労組書記次長の川口美穂さんが聞きました。

劣化ウラン弾の見えない恐怖 占領政策に高まる反米感情

現在、イラクの復興状況や人びとの生活はどうなっているのか？
【久保田】 私はアフガニスタンでの取材も続けているのですが、イラクはアフガニスタンと比べると驚くほどのスピードで復興しています。すべての人が買えるかどうかという問題はありますが、食料をはじめ普通に生活するのに必要なものは溢れるほどに流通していますし、インフラもかなり早い段階から復旧されてきています。やはりアフガニスタンと比べると石油がありまして国自身が持っているパワーが比較にならないと思います。ただ経済制裁のもとで医薬品が不足しているなどの事態は深刻ですね。それと湾岸戦争に続いて今回も米英軍は劣化ウラン弾を使用しました。その量は前回の2倍以上と言われていますので、その見えない恐怖はたまらないと思います。
マスコミでは治安の問題が指摘されていますが、【久保田】 イラクの人た

ちにとって米軍がフセイン政権を倒してくれたことはラッキーなのですが、自分たちの自由を奪い占領政策を続けていることには、どんどん反感が強まっています。ですから占領が長引けばもっと米軍への襲撃やテロは激化すると思います。ただ民間人にはさほどの危険はなく、欧米へ海外旅行に行くとトラブルに遭うのと変わりありません。



久保田 弘信 さん

1967年、岐阜県大垣市出身。フォトジャーナリスト。カメラマンとして活躍する一方、東南・中央アジアを中心に海外取材を続けている。

武装した自衛隊はイラク人の敵 国連主導の支援が重要

米英軍の後方支援のために自衛隊が派兵されようとしています。
【久保田】 今回のイラク特措法では米英軍の物資輸送などをするとされていますが、イラク人にとって米英軍は占領軍なんです。ですから軍服を着て武装した自衛隊が後方支援を行えば敵と見なされるのは当然です。今回のイラク攻撃に対して日本は真っ先に支持したわけですが、イラクで日本は第三の敵国と言われています。要するに自衛隊が行くことが危険をさらに増幅させるのです。イラクの人はいくらも支援を求めているのですか。
【久保田】 まず国連主導による支援を求める声は急速に高まっています。具体的な問題では、ゴミが片付

誰のための支援なのか

イラクではプレステ2が密輸可能なのに医薬品は圧倒的に不足していることを聞きました。「復興支援」というけれど、誰のための支援なのか、政府は国民にはっきり示して欲しいものです。戦前、戦中、戦後(?)のイラクを見てきた久保田さんが「今のイラ



川口 美穂 さん
北医療生協労組書記次長

クの問題はゴミ、衛生、倒壊した建物の処理。自衛隊派遣というなら、銃をスコップに持ち替えて」と言ったのが印象的でした。
何が正しいかを頭で考えるだけではなく身体の中からわき上がる何かに突き動かされてアフガンやイラクに行っている久保田さんを見てみると、私が突き動かされるものは何だろうかとか考えてしまいました。それはきつと日常の中にあるのだらうと思います。だから今この時が大切なのだと感じたインタビューでした。

帰宅途中の地下鉄で隣にすわっていた若い女の子二人がケイタイを出してメールチェック。しばらくすると左右に振っている。「振ると電波を拾うのか？」と私の独り言。そのうち「やつば圏外だわ」と話し声が耳に。聞いていると「返ってくるのは10のうち8ぐらいなんだって」「自分で貯めた方がいらしいよ」でも社会がこまるんじや」だけ自分の方が大事だし...。厚生年金の話らしい。「へーこの娘たちも年金のこと考えているんだ」とまた独り言。「今のおばあさん達が一番もらってるんだって」でもうちのばあちゃんも働いているから...と結構詳しいボーンナから社会保険料がガツポリ取られたが「年寄り金持ち論」が持ち込まれ、怒りは政府ではなく世代間対立へ向けられる。小泉政権を支えるこのインチキ。政府による情報統制は「個人情報保護」、戦争への動員は「国民保護法」、イラクの占領は「支援法」と名前が立派。このインチキさを若者にまでどう知らせるか。秋にも年金改悪の政府案が決まる。新聞は「財源をはっきりさせる」とそれは消費税10%とマスコミもインチキにかりだされている。今週は愛労連第29回定期大会。秋に向け、小泉にだまされない運動をどう展開するか。忙しい秋を迎える前に、じっくりと作戦を考えたい(K)

公務員制度改悪
阻止愛知総行動

共同をひろげて公務員制度改悪反対 賃金破壊にストップを



行財政総合研究所理事の川村祐三さんを迎えたシンポジウム

公務員制度改悪阻止共闘会議（愛労連、愛知国公、愛知公務共闘、東海ブロック国公で構成）は4月16日に学習決起集会を開催し、全労連の提起した民主的公務員制度の確立めざす全国キャラバン行動（愛知では5月31日～6月2日）をキャラバンだけに終わらせず、5月を「愛知総行動」の闘争期間として設定し、地元国会議員要請行動、自治体キャラバン、シンポジウムなど多彩な行動を計画しとりくんできました。

単産を超えた共同の大切さを再確認

国会議員要請行動では国

公が中心になり自治労連や地域労連との共同で30人の地元事務所へ要請を行い、自治体キャラバンでは県下54自治体への要請行動を自治労連が中心になり、合併問題などともに公務員制度改悪について要請しました。行動をおおして公務単産の共同の重要さが再認識されました。全国キャラバンが愛知入りした5月31日には、金山総合駅前での宣伝行動と「公務員制度シンポジウム」を約100名の参加で開催。6月2日には名城東小公園での昼休み決起集会、愛知県、名古屋市中心部への要請、豊橋駅前での宣伝行動を行いました。

今回の「愛知総行動」を通じて、愛知国公と自治労連がしっかりと共同行動を展開できたことは大きな成果です。こうした経験を活かして人勤闘争ではさらなる共同を強化し、民間の仲間や地域の業者の方たちとも連携していく必要があると考えています。7月上旬には地域労連の協力も得ながら、商工会議所や商店街振興会に要請を行います。また7月15日、16日の両日には人事院中部事務局前の座りこみ、16日には昼休み決起集会も開催します。今年の人勤も厳しいたたかいが予想されますが、マイナスイメージが必至の状況となった場合には、人事院に対して個人請願でのたたかいかも配置して全力でたたかう決意です。

（愛知国公発）

愛労連は今年も最低賃金生活体験をはじめ、賃金制度の確立・引き上げをめざしてとりくみをすすめてきました。体験闘争には、建交労や全国一般、愛知国公、自治労連などから約60人が参加。最低賃金や人勤標準生計費による生活体験、また家計簿のみ記録する方法で、2月1日から28日までチャレンジしました。

「10万円ちよつとの最賃では人付き合ひもできない」「食費だけがかつかつ。本すら買えないし、これではまともな生活は成り立たない」などの声が寄せられています。

最低賃金 引き下げなんてとんでもない 署名をひろげよう

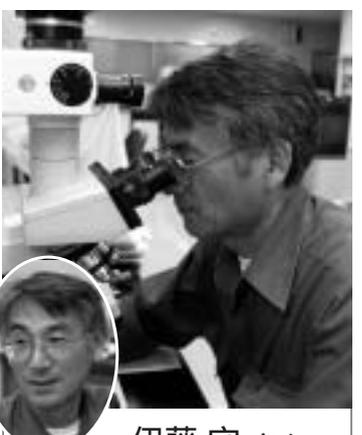
4月11日には愛知最低賃金審議会委員に、愛労連として全国一般愛知地本の國村忠文書記長と名動生協労組パート部会の宮垣加代子さんを推せました。4月18日には

愛知最低賃金を日額7400円、時間額1000円とする。愛知県の最低賃金のランクを現行のBランクからAランクに引き上げること、最低賃金審議会

愛知最低賃金は、中央最低賃金審議会が7月17日に改定「目安」を出し、地方の審議会はそれを受けて、各都道府県の最低賃金を決めます。昨年は改定を見送った愛知最賃審議会が、愛知の実態を踏まえ、独自に引き上げの判断をおこなうよう強く要請することが求められています。

愛労連は現在、審議会あての団体署名・個人署名にとりくんでいます。が、早急にこれを集め、再度の据え置きや引き下げのないよう求めていくこととします。

「名古屋の水は木曾川に設置された2カ所の取水場から取り入れていますが、きれいな水を保っているんですよ」と話すのは、名古屋千種区にある鍋屋上野浄水場で生物学的な水質検査を行っている伊藤守さん。水の管



伊藤 守さん
名古屋水道労働組合
千種支部

日々の努力と鍛錬で 安全な水を守る管理人

理人として働き続け、この道34年のベテランです。木曾川の水がきれいなのは、取水場より上流部の流域人口が少ないのと流量が多いからなのだそう。

同浄水場は名古屋市ではもっとも古く、最初の水に含まれる不純物を砂のろ過層で取り除き、あ

ら給水を開始。これまでに拡張整備されながら今も現役で水を作り続けています。名古屋の水は3カ所の浄水場でつくられています。同浄水場はその約20%（1日あたり29万）の処理能力を持っています。

名古屋の浄水場には緩速ろ過式と急速ろ過式と呼ばれる二つの方式による処理設備があります。3カ所の浄水場の内、同浄水場だけに急速ろ過方式の設備がありません。構造的には非常に単純で、川から取り入れた水に含まれる不純物を砂のろ過層で取り除き、あ

とは塩素で消毒するというもの。設備にもお金がかからず、エネルギー消費量も少ない施設です。川に生息する生物から水質を判断

水質検査は水に含まれる化学的な成分から分析する理化学検査と水に生息する植物や昆虫、プランクトン、細菌などから分析する生物検査があります。こうした検査は、川の最上流、中間部、浄水場の前後、そして市民が実際に利用する蛇口の段階まできめ細やかに行われています。「検査の結果を信頼されるものにするため、絶えず鍛錬と試験の精度向上をめざしています」と語る伊藤さんは水を守る管理人としての責任感に満ちていました。

地域労連 研究集会

地域に働く労働者の生の姿をひらき

「地域労連は地域労働者の期待に応えているか」

問題を重視し「市民の足を守れ」の運動を展開（中地域センター）、03人勤でのマイナスイメージを阻止するため、地域労連とともに国会議員要請行動を展開（愛知国公）、ダイコー千葉裁判が控訴、引き続き支援を（港地区労）などのほか、市町村合併に対峙するとりくみや自治体要請行動などについて発言がありました。

翌2日目は、基調報告での提起を受けての討論、地域の実情や地域労連の実態などとともに、共通している問題として活動家をどう育成するかが緊急の課題となることが指摘され、この点でも議論がおこなわれました。



活動報告をする港地区労の福田議長

愛労連は6月21日、22日の両日、第13回地域労連研究集会を犬山市の臨江館で開催し、各地域労連や単産代表など40人が参加しました。

研究集会では地域労連の活動の悩みや今後の運動方向など、さまざまな課題について議論されました。

基調報告では、愛労連の平田茂副議長（尾中地区労連事務局長）が「地域

地域に働く労働者の生の姿をひらき、地域に働く労働者の生の姿をつかむ、そして幅広い共同で地域経済を守る運動をすすめることを強調しました。

基調報告のあと、一宮地区労連、中川地域センター、西三ブロックから報告

活動報告を受けて討論では、それぞれの地域労連や単産のとりくみについての発言が相次ぎました。交通